



## 平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社東急レクリエーション

コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 菅野 信三

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長

(氏名) 堀江 真二郎

TEL 03-3462-8870

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	7,563	5.9	308	51.2	273	72.8	73	△54.0
25年12月期第1四半期	7,139	6.3	204	—	158	—	160	377.6

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 △129百万円 (—%) 25年12月期第1四半期 807百万円 (471.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	2.51	—
25年12月期第1四半期	5.46	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	41,317	—	20,655	—	—	50.0
25年12月期	41,865	—	20,874	—	—	49.9

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 20,655百万円 25年12月期 20,874百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	3.00	—	3.00	6.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	3.00	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	14,133	2.1	190	△42.9	125	△53.8	37	△85.6	1.29
通期	30,341	0.4	757	△28.0	619	△32.6	319	△45.0	10.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期1Q	31,937,474 株	25年12月期	31,937,474 株
26年12月期1Q	2,600,223 株	25年12月期	2,598,118 株
26年12月期1Q	29,338,195 株	25年12月期1Q	29,362,473 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による各種政策の効果により、円安・株高傾向が継続するなか、企業収益に改善が見られ、個人消費も増加するなど景気は緩やかな回復基調となりました。

しかしながら、世界経済の下振れ懸念が依然として残り、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が見込まれるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、主幹事業である映像事業、スポーツ・レジャー事業、不動産事業の各事業において、積極的な営業活動を行うとともに、全社を挙げて収益構造の改善をより推進し、強固な経営基盤の確立をはかってまいりました。

この結果、売上高は7,563百万円（前年同期比5.9%増）、営業利益は308百万円（前年同期比51.2%増）、経常利益は273百万円（前年同期比72.8%増）となりましたが、事業所閉鎖に伴う減損損失等を計上したことにより、四半期純利益は73百万円（前年同期比54.0%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## ① 映像事業

映画興行事業におきましては、各シネマコンプレックスの顧客ニーズに合わせた番組編成により客席稼働率を上げるとともに、コンセッションや劇場内でのシアタープロモーションによる付帯収入の獲得に努め、収益力向上をはかってまいりました。

上映作品といたしまして、邦画では「永遠の0」「ドラえもん 新・のび太の大魔境〜ペコと5人の探検隊〜」「土竜の唄 潜入捜査官 REIJI」、洋画では「アナと雪の女王」をはじめ、IMAX®版でも上映されました「ゼロ・グラビティ」「ホビット 竜に奪われた王国」「マイティ・ソー/ダーク・ワールド」などが好評を博し、当事業の収益に寄与いたしました。

映像関連事業といたしましては、2月に開催されました「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2014」におきまして、企画・運営業務を受託し、地域における映像文化の発信に努めてまいりました。

この結果、売上高は3,839百万円（前年同期比10.2%増）となり、徹底したコストコントロールによる効率的な運営を実践してきたことにより、営業利益は172百万円（前年同期比295.2%増）となりました。

## ② スポーツ・レジャー事業

ボウリング事業及びフットサル事業におきましては、各事業所において、地域の特性に合わせたサービスを提供するとともに、利用者に訴求力のある各種大会・イベントなどの企画・開催、スクールの充実などに取り組み、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

コンビニエンス事業におきましては、1月に17店舗目となる「ファミリーマート本駒込一丁目店」（文京区本駒込）を開業するとともに、都心に展開する各店舗においても、プライベートブランド商品、季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。

飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗にて充実したメニューを揃えるとともに、きめ細やかなサービスや施設のクレンリネスの徹底などを心掛け、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

この結果、新規事業所の開業などにより、売上高は1,315百万円（前年同期比4.2%増）となりましたが、ボウリング事業及びフットサル事業を取り巻く市場環境は依然として厳しく、営業損失は4百万円（前年同期は20百万円の営業利益）となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、当社直営ビル及びマスターリースビルの双方において、テナント企業からの賃料見直しや退去等により、賃料は緩やかな下落を続け、引き続き大変厳しい事業環境となりました。

このような状況のなか、「池袋とうきゅうビル」(豊島区東池袋)「宇田川町TRビル」(渋谷区宇田川町)をはじめとする当社直営ビル、「三郷中央駅前ビル」(埼玉県三郷市)などのマスターリースビルにおきましては、各ビルの特性に合わせた事業環境の整備に取り組み、安定収益の確保に努めてまいりました。

ホテル事業におきましては、国内旅行回帰の傾向が若干見られるものの、業界全体では新規ホテルの出店が続く、依然として続く厳しい事業環境のもと、宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」(広島市中区)並びに「熊本東急イン」(熊本市中央区)において、インターネットを利用した販促活動や満足度の高い宿泊パック等を提供するなど、顧客の獲得をはかり、客室単価及び稼働率維持に努めてまいりました。

この結果、売上高は2,077百万円(前年同期比0.9%増)となり、営業利益は379百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

アミューズメント事業におきましては、ゲームセンター「G-R E C' S」での快適な店舗の運営に努めてまいりました。

ランキン事業におきましては、「ランキンランキン e k i m o なんば店」(大阪市中央区)など直営4店舗体制のもと、各店舗とも、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、積極的な販促活動を行い、収益力の強化に努めてまいりました。

この結果、売上高は329百万円(前年同期比0.7%減)となり、営業損失は2百万円(前年同期は14百万円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産、負債、純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ547百万円減少し、41,317百万円となりました。これは主に有形固定資産が250百万円、投資有価証券が312百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ328百万円減少し、20,662百万円となりました。これは主に借入金194百万円増加し、買掛金が350百万円、未払法人税等が157百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ219百万円減少し、20,655百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が203百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月14日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,052,027	918,810
受取手形及び売掛金	1,176,024	1,125,653
商品	200,675	187,242
貯蔵品	74,228	68,219
繰延税金資産	119,370	140,287
その他	3,317,695	3,291,262
貸倒引当金	△588	△806
流動資産合計	5,939,433	5,730,669
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,748,224	8,546,520
土地	9,908,024	9,908,024
その他(純額)	1,436,217	1,387,912
有形固定資産合計	20,092,466	19,842,457
無形固定資産		
投資その他の資産	1,103,814	1,092,817
投資その他の資産		
投資有価証券	3,864,905	3,552,035
差入保証金	9,195,451	9,320,771
繰延税金資産	76,088	192,319
その他	1,593,662	1,587,248
貸倒引当金	△726	△610
投資その他の資産合計	14,729,381	14,651,764
固定資産合計	35,925,661	35,587,039
資産合計	41,865,094	41,317,709

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,150,252	1,799,925
短期借入金	1,000,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	620,818	620,872
未払法人税等	221,603	63,780
引当金	82,100	109,736
その他	2,239,814	2,287,795
流動負債合計	6,314,589	6,082,110
固定負債		
長期借入金	1,054,745	1,049,507
再評価に係る繰延税金負債	2,581,782	2,581,782
退職給付引当金	291,044	299,787
資産除去債務	1,338,125	1,327,491
受入保証金	6,831,385	6,782,000
その他	2,579,067	2,539,789
固定負債合計	14,676,150	14,580,360
負債合計	20,990,740	20,662,470
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,028,813	7,028,813
資本剰余金	7,061,207	7,061,207
利益剰余金	2,991,242	2,976,929
自己株式	△1,394,922	△1,396,144
株主資本合計	15,686,340	15,670,805
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	779,144	575,563
土地再評価差額金	4,408,869	4,408,869
その他の包括利益累計額合計	5,188,013	4,984,433
純資産合計	20,874,354	20,655,238
負債純資産合計	41,865,094	41,317,709

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	7,139,428	7,563,082
売上原価	6,691,581	7,018,213
売上総利益	447,847	544,869
販売費及び一般管理費	243,667	236,184
営業利益	204,179	308,684
営業外収益		
受取利息	5,781	5,349
為替差益	—	1,976
償却債権取立益	4,032	—
その他	1,430	2,040
営業外収益合計	11,244	9,365
営業外費用		
支払利息	45,080	41,379
持分法による投資損失	6,112	—
その他	5,725	2,814
営業外費用合計	56,917	44,194
経常利益	158,506	273,855
特別利益		
固定資産売却益	—	100
特別利益合計	—	100
特別損失		
固定資産売却損	43	—
固定資産除却損	409	764
減損損失	—	151,362
その他	—	21,754
特別損失合計	453	173,881
税金等調整前四半期純利益	158,053	100,073
法人税等	△2,132	26,368
少数株主損益調整前四半期純利益	160,186	73,704
四半期純利益	160,186	73,704



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	160,186	73,704
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	646,948	△203,580
その他の包括利益合計	646,948	△203,580
四半期包括利益	807,135	△129,875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	807,135	△129,875
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,484,931	1,262,616	2,059,788	6,807,336	332,092	7,139,428	—	7,139,428
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	13,304	13,304	217,565	230,869	△230,869	—
計	3,484,931	1,262,616	2,073,093	6,820,640	549,657	7,370,298	△230,869	7,139,428
セグメント利益	43,743	20,829	355,768	420,340	14,124	434,465	△230,285	204,179

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△230,285千円には、セグメント間取引消去△67千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△230,217千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,839,954	1,315,964	2,077,510	7,233,429	329,653	7,563,082	—	7,563,082
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	7,916	7,916	223,384	231,300	△231,300	—
計	3,839,954	1,315,964	2,085,427	7,241,346	553,037	7,794,383	△231,300	7,563,082
セグメント利益又は 損失(△)	172,874	△4,390	379,279	547,763	△2,386	545,376	△236,692	308,684

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△236,692千円には、セグメント間取引消去△111千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△236,581千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。